

平成25年度病害虫発生予報第3号

平成25年6月4日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	全域	前年の穂いもち発生量は平年並 5月下旬現在、発生を確認して いない(平年並)	± ±
	紋枯病	平年並	全域	昨年の発生量は平年並	±
	縞葉枯病	平年並	全域	抵抗性品種の栽培が多い ヒメトビウンカの発生量は平年 並 ヒメトビウンカの保毒虫率は西 三河地域でやや高い	- ± +
	ニカメイガ	平年並	全域	予察灯及びフェロモントラップ における誘殺数は平年並	±
	ツマグロヨコ バイ	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イネミズゾウ ムシ	やや少ない	全域	5月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並	- ±

・留意事項

イネいもち病は気温20～25℃で降雨が続くと発生が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

ムギ類では、収穫期の降雨が赤かび病の発生を助長します。収穫期を迎えたほ場から、速やかに収穫しましょう。

ムギ類栽培ほ場において、ミナミアオカメムシの発生を確認しています。ムギ類の収穫後は他作物に移動する可能性が高いので注意しましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	± - +
	黒点病	やや少ない	全域	5月の枯枝の孢子形成量は少ない 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	- - +
	ミカンハダニ	少ない	全域	5月下旬の発生量は少ない	-
	アブラムシ類	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は少ない 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	- +
ナシ	黒星病	やや多い	全域	5月下旬の発生量はやや多い 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	+ - +
	アブラムシ類	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	5月下旬の発生量はやや多い 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	+ - +
	黒星病	やや多い	全域	4月の発病枝率はやや高い 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	+ - +
	灰星病	平年並	全域	4月の発病花率は平年並 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	± - +
	ナシヒメシクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	5月下旬の被害葉率はやや低い フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	- -
ブドウ	べと病	平年並	全域	5月下旬現在発生を確認していない(平年並) 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	± - +
	黒とう病	やや少ない	全域	5月下旬の発生量はやや少ない 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	- - +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ブドウ	晩腐病	平年並	全域	昨年の発生量は平年並 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	± - +
	チャノキイロ アザミウマ	やや多い	全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	+ ±
カキ	炭疽病	平年並	全域	昨秋の発生量は平年並 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	± - +
	角斑落葉病 円星落葉病	やや少ない	全域	昨秋の発生量はやや少ない 5月の降水量は少なかった 6月の降水量はやや多い	- - +
	うどんこ病	やや少ない	全域	5月下旬の発生量はやや少ない	-
果樹共通	カメムシ類	少ない	全域	越冬成虫密度は低い フェロモントラップ及び予察灯における誘殺数はやや少ない	- -

・防除対策

[ナシ・黒星病]

発病葉や発病果は伝染源となるので、取り除き、園外へ持ち出し処分するとともに、スコア顆粒水和剤、ベルコートフロアブルなどで防除を徹底しましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意し、デランフロアブル、チオノックフロアブル、バリダシン液剤5などで防除しましょう。

[モモ・黒星病]

品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意し、デランフロアブル、チオノックフロアブル、スコア顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ブドウ・チャノキイロアザミウマ]

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」を参照してください。

・留意事項

ブドウで黒とう病の発生を一部のほ場で確認しています。べと病と同様に降雨が続くと急速に広がるおそれがあるので注意しましょう。早めの袋かけなど予防に努め、発生を確認したら発病部位を除去しましょう。

ナシヒメシンクイ越冬世代成虫のフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並です。有効積算温度から予測した第2世代ふ化幼虫の防除適期は、豊田市で6月18日、豊橋市で6月17日で、昨年より4日程度早くなっています。適期を逃さないように防除しましょう。

有効積算温度から予測したフジコナカイガラムシの第1世代ふ化幼虫防除適期は、昨年より1～5日早い6月3日から9日です。5月中旬に算出した予測日（5月16日発表「フジコナカイガラムシ情報第1号」参照）より防除適期が早まっている地域があります。南知多町では3日、愛西市、名古屋市、豊田市、伊良湖では2日、岡崎市、豊橋市では1日、それぞれ早まっています。

野菜

・留意事項

キュウリではミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）、トマトではタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）が発生している場合があります。発生ほ場では次作への病害の伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

施設ナスでは、ミナミキイロアザミウマとハダニ類の発生が多いほ場があります。発生の多いほ場では、次作への発生源を減らすために、栽培終了後に施設を密閉してミナミキイロアザミウマ、ハダニ類を死滅させましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	5月下旬の発生量はやや少ない 6月の降水量はやや多い	－ ＋
		やや多い	中山間部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はやや多い	± ＋

・防除対策

[キク（露地）・白さび病]

被害葉を切除して適切に処分するとともに、ラリー乳剤やストロビーフロアブルなどで防除しましょう。耐性菌の発生を防ぐため、同一系統の農薬を連用せずローテーション散布を行いましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台5月31日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止